

今回紹介するソフトは奈良県の松浦昭良氏の作品で、その名も「なび助」。これは NEC の PC98シリーズ用に開発したソフトである。

一口にパソコンといっても色々あるが、日本電気の98シリーズといえば国内トップシェアを誇り、国内では最も手に入れやすいパソコンといえるだろう。PC98シリーズの中でもデスクトップタイプといわれる大型のものは電源や置き場所の問題から小型船で使うには無理がある。ノートブック型であれば軽量コンパクト、しかも値段も安く、艇の上でもいろいろな可能性がでてくる。

そこで松浦さんが目をつけたのは、GPSプロッター。外部データ出力ができるGPSと手持ちのノートパソコンを繋げば、高価な市販のプロッター付きGPSに匹敵する機能を得られるのでは、と考えたのだ。

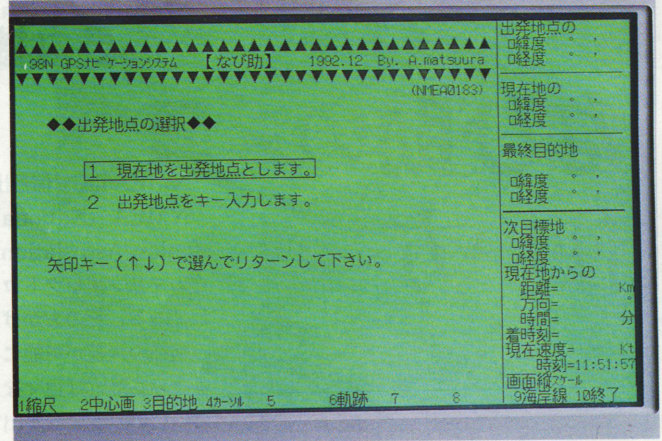
松浦さんは関西は泉大津をベースにヨットライフを楽しむ43歳の会社員。ヨット歴は7年。ブルーウォーター21でヨットを始め、現在はヤマハ MS27、<マリネスト7>を所有する。コンパスだけを使ったセーリングでは物足りず、コンピューターを使ってなにかできないものかとプログラミングに挑戦した。本職のコンピューター・プログラマーではなく、プログラミングはあくまで趣味とのこと。本誌には「アマコンジャーナル」という自作ヨットのコーナーがあるが、このような自作ソフトウェアも、姿こそ違えど同じような楽しみのひとつなのかもしれない。

当初はGPSが受信したポジションを手入力でパソコン上の画面に表示させるというものだった。まだデータ出力のできる安価なGPSがなかった頃だ。その後、日本無線からデータ出力のできるハンディー機「JLR-4400」が発売されるとすぐにこれを購入。コンピューターへの直接入力を実現した。

松浦さんは以前にもアマチュア無線のコントローラーなどのソフトを自作した経験を持つ。この「なび助」は当初「N88BASIC」と呼ばれる言語で開発したのだが、プログラムが本格的になるにしたがって「N88BASIC」に行き詰まりを感じ「Quick BASIC」に切り替えた。完成にこぎつけるまで約1カ月。とりわけ海岸線（大阪湾のみ）の入力には苦労したそうだ。

この海岸線入力のために、松浦さんはタブレットという入力装置を購入した。予算の関係でタブレットのサイズがA4になり、海図をA4サイズに切り刻んで何回にもわけ入力したという執念の海岸線。プロッター機能、目的地の登録もさることながら、

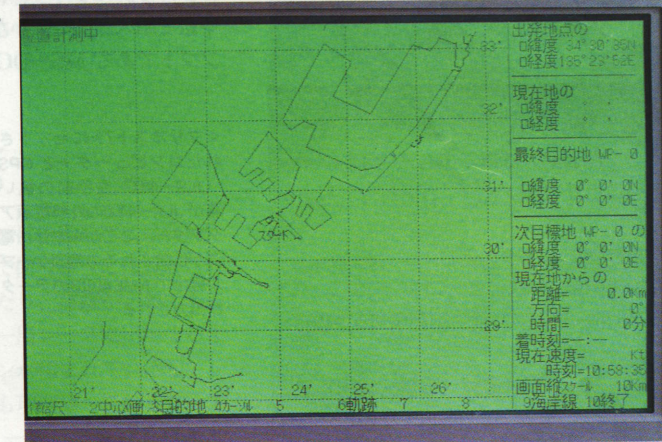
なび助の起動画面。GPSポジションを出発点とするか、キーで出発点を入力するかを決める。航海計画を練るときにも非常に便利だ



大阪湾の海岸線を表示。画面右には出発点、現在地の緯度・経度や、目的地（ウェイポイント）までの方位・距離などが表示される。この画面での縦スケールは50km



泉大津付近の拡大画面。画面の縦スケールは10km



精密に表示される海岸線はみごとだ。「なび助」は別記の方法で手に入れることができるのだが、このプロッターの恩恵にあずかれる関西方面のセーラーの皆さんは、感謝の意をこめて使っていただきたい。

それにしても、市販プロッターにも匹敵するこの「なび助」、アマチュア・プログラマーの作とは思えない。腕に覚えのある方には、どんどんこのようなソフトを作ってもらいたいものだ。GPSプロッター以外にも海で役に立つソフトはいろいろ考えられるはず。編集部気付「電研研究所」まで連絡していただければ、皆さんの力作を順次誌面で紹介していきたい。